



TITLE:

<大會抄録>秦始皇の貨幣統一について

AUTHOR(S):

稲葉, 一郎

---

CITATION:

稲葉, 一郎. <大會抄録>秦始皇の貨幣統一について. 東洋史研究 1977, 36(3): 485-485

ISSUE DATE:

1977-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153667>

RIGHT:

れ、むしろ朱元璋は、江南地主層の利益代表として利用・擁立され、その指導の下に南京を京師にした王朝が成立せしめられたことが指摘されるように思われる。

### 唐宋變革期における吳越國の位置づけについて

佐 竹 靖 彦

從來の宋代社會經濟史研究は、史料制約もあり、具體的とはいわゆる先進地帯としての長江デルタ地帯の分析を主流としてきた。

一方唐代あるいはそれ以前の社會經濟史研究においては、華北のそれに重點がおかれている。これは隋唐以來の華北と長江流域の經濟的地位の逆轉を考えると當然のことといえるが、唐宋變革を全體として把握するためには、こうした地域的比重の逆轉そのものの歷史的過程とその意味を問う必要がある。

ここでは宋代にいわゆる先進的經濟地帯とされている兩浙地方が、そのような位置を獲得したのはいつごろであったか。又このような發展をふくみもつ兩浙地方の七世紀から十二世紀にかけての歷史過程は唐宋變革全體の中でどのように位置づけられるのかを問題とした。

具體的には、この問題を、第一に、唐宋變革全體の中の吳越國の位置と構造——華北諸王朝とのかかわりの中での吳越國制・吳越の軍事體制の分析——から追求し、第二に、唐宋變革の中での兩浙地域の社會經濟の位置づけの問題を、宋代に入ってから同地域の

社會經濟構造に關する學說の成果をふまえて問題を溯及する形でとりあげたい。そして實證的には學田の問題を集中的にとりあげ、そこから、より一般的な中國近世の國家權力の基礎の問題にまで論及したい。

### 秦始皇の貨幣統一について

稻 葉 一 郎

秦始皇帝が初めて中國の貨幣を統一したという事實は、中國の歴史では常識中の常識になっている。この有名な事實は、周知のように、『史記』平準書および『漢書』食貨志(下)の記述に本づいているわけであるが、新中國の考古學的發掘の結果、秦半兩の出土は主として陝西・四川兩省に限られ、その他の地方では僅かに河南省の出土が伝えられるにとどまり、歴史記述と考古學的事實の矛盾が指摘されている。また半兩錢と戰國時代の貨幣とが併用されていたらしい事實なども指摘されている。

このような矛盾は、今日的流行の解釋、理念と現實、建前と本音、というような安易な解釋で解決できるものなのであろうか。

『史記』・『漢書』の歴史記述をもう一度再検討し、考古學的成果をも吟味しつつ、より合理的な歴史像を再構成して見たい。